

バルネ・ウィランの妖しい魅力

本日5月25日は59歳で亡くなったバルネ17回目の命日です。90年代には何度も来日し、バリバリ活躍していた全盛期に飛び込んできた彼の訃報は、大きなショックでした。（生前、原宿キーストンコーナーのライブに仕事で行けず、涙を飲みました）

私がバルネに嵌った日のことは、今でも鮮明に覚えています。平成になった年の晩秋の日曜、翌年より営業職に転じることが決まり、気分転換に聖蹟桜ヶ丘の社宅を抜け出して、吉祥寺のメグにて暫しの休息を取っていた時のこと。程なく暖かい音色のテナーと懐かしさを感じる美しいメロディーが続くレコードがかかりました。3曲目あたりで「なんだろうこのレコード？」とカウンター横に架けられたジャケットを覗きに。モノトーンのシンプルな装丁で「フレンチ・バラッズ？バルネ・ウィラン？あの死刑台のエレベーターの？」と眺めては席に戻りました。しかしA面最後のルグラン「思い出の夏」を聞き終える頃にはムラムラとこのレコード欲しくなり、居ても立っても居られず会計を済ませ、メグを飛び出しました。確か吉祥寺ユニオンから⇒新宿ユニオン⇒渋谷タワーレコード⇒六本木ウエーブまで回ったと思いますが、新譜にも関わらず影も形もありません。IDAと云うフランスのマイナーレーベルのため入荷が極端に少ないとのこと、その日はがっくり疲れて桜ヶ丘に帰投しました。暫く後ウエーブから入荷の連絡を貰い小躍りしてやっと手に入れ、仲間用にも新品数枚を購入、その後もユニオン等で中古盤を見つける度には反射的に買ってしまい、累計20枚近くは各方面に押し売りしたでしょうか？

バルネは1954年の初録音から1961年頃まではフランスを代表するハード・バップのテナー・サクソ奏者として引っ張りだこで、数多くのセッションに参加しています。

（59年にはニューポートジャズフェスティバルにて穉吉敏子と共演）

しかし60年代初頭から80年代中頃までは、モダンジャズ以外の活動に次々と身を投じ、作品もそれなりに残されていますが、ジャズの本流からは外れていました。

初期のフランス録音も、プレス枚数が少なく殆ど手に入らない状況の中で、日本でバルネは長らく過去の人扱いでした。ところが86年にIDAに録音したラ・ノート・ブルーで忽然とジャズの世界に復活、以後日本レーベルを含め、亡くなるまでの10年間にかなり精力的な録音を残しました。復活後はテナーに加えソプラノ・サクソも多用し、その可憐かつ幽玄な音色には、いつも心を洗われる思いをしています。

（日本のサクスメーカー・YANAGISAWAの楽器を愛用していました）

私が突然虜になり、未だレコード蒐集の道半ばではありますが、フランスの妖しい伊達男・バルネ・ウィラン。思い入れたっぶりの極私的愛聴盤をお聞きください。

BARNEY WILEN (1937.3.4 – 1996.5.25)

1. Roy Haynes Modern Group (Swing M.33.337)

⇒BMG-Japan BVJJ2950)

Barney Wilen (ts) ・ Jay Cameron (bs) ・ Henri Renaud (p) ・
Jimmy Gourley (g) ・ Joe Benjamin (b) ・ Roy Haynes (ds) 1954.10.26
B-1 Minor Encamp (D.Jordan) 5:06

バルネ、若干17歳時の初録音。もう既に堂々とした演奏を披露しています。ロイのリーダーアルバムはどれもドラマーとして出しゃばらずサイドメンが伸び伸びとやっています。

2. Jay Cameron's International Sax Band (Swing M.33.341)

Barney Wilen / Bobby Jasper / Jean-Louis Chautemps (ts) ・
Jay Cameron (bs) ・ Henri Renaud (p)
Benoit Quersin (b) ・ Mac-Kak (ds) 1955.1.1
A-3 Give Me the Simple Life (Kern) 4:35

前年の初録音時に共演した、バリトンのジェイ・キャメロンのリーダーアルバムに参加。3人のテナー・サクソ奏者の中でしっかりソロをとっています。このトラックのソロオーダーはキャメロン⇒バルネ。

3. Afternoon in Paris (Versailles MEDX 12005)

Barney Wilen (ts) ・ John Lewis (p) ・ Sacha Distel (g) ・
Pierre Michelot (b) ・ Connie Kay (ds) 1956.12.4
A-2 Dear Old Stockholm (Traditional) 6:01

ジョン・ルイスのリーダーアルバムには余り触手が動きませんが、このレコードは例外。エッフェル塔をバックにした素敵なジャケットに魅せられた方が多いと思います。アトランティックから出たアメリカ盤は、ジャケットの背景にフランス三色旗を重ねていて、大分印象が違います。この演奏冒頭のスリリングな絡みは、非常にかっこいいですね。

4. T I L T (Swing LDM30.058 ⇒ M&M)

Barney Wilen (ts) ・ Maurice Vander (p) ・
Bobi Rovere (b) ・ Al Levitt (ds) 1957.1.7

A-2 Nature Boy (Ahbez) 4:24

Barney Wilen (ts) ・ Jack Cnudde (p) ・
Bobi Rovere (b) ・ Charlies Saudrais (ds) 1957.1.11

B-3 Mysterioso (Monk) 4:10

バルネ名義の初リーダーアルバム、センスの良いジャケットです。A面とB面とではピアノとドラムが変わり、B面はモンク特集です。本日持参のジャケットは初発盤ですが、悲しい理由でレコード盤をターンテーブルには乗せられません。お聞かせするレコードは梅ヶ丘にあったノスタルジアレコードが、状態の良い初発盤からレコードダビングして秘かにプレスした盤です。

5. Barney Wilen Quintet (Guilde du Jazz J-1239)

Barney Wilen (ts) ・ Hubert Fol (as) ・ Nico Buninck (p) ・
Lloyd Thompson (b) ・ Al Levitt (ds) 1957

A-2 Brainstorm (unknown) 4:50

バルネの横顔が素敵なジャケットですが、50年代のリーダーアルバムの中では一番地味な印象の録音。近々フランス SAM レコードよりアナログで復刻されるようです。

6. Ascenseur Pour L' Enchafaud (fontana -France 660 213MR)

Barney Wilen (ts) ・ Miles Davis (tp) ・ Rene Urtreger (p) ・
Pierre Michelot (b) ・ Kenny Clarke (ds) 1957.12.4

A-3 Sur l' autoroute (M.Davis) 2:22

7. Ascenseur Pour L' Enchafaud (fontana-Holland 660.213TR)

B-4 Au bar du petit bac (M.Davis) 2:56

説明の必要がない「死刑台のエレベーター」サントラ。バルネの名を広くジャズ界に知らしめた歴史的なレコードです。この録音の成功がフランス映画とジャズとのコラボレーションをより深めたことでしょう。主役マイルスの陰で、バルネのソロパートは余り多くありません。色々なジャケットのヴァージョンがありますが、私的には潤んだ上目のジャンヌ・モローのショットを使ったフランス 10 インチ盤と、マイルス & モロー・2ショットのオランダ 10 インチ盤が好きです。

8. Jazz Sur Seine (Philips P77.127L)

Barney Wilen (ts) ・ Milt Jackson (p) ・ Percy Heath (b) ・
Kenny Clarke (ds) ・ Gana M' Bow (per) 1958.2.13-14

A-1 Swing 39 (D.Reinhardt) 4:41

B-3 Nuages (D.Reinhardt) 5:36

B-6 Minor Swing (D.Reinhardt) 4:41

MJQ のメンバーとの競演ですが、ミルト・ジャクソンが全編ピアノを演奏しています。朗々と響くバルネの音色が心地よく、録音の良さと相俟って、初期バルネの代表作です。自宅のターンテーブルへの登場頻度が一番高い大好きなレコード故、全部お聞き願いたいところですが、止む無くジャンゴ・ラインハルト作曲の3作に絞りました。

9. Barney (RCA-France 430.053)

Barney Wilen (ts) ・ Kenny Dorham (tp) ・
Duke Jordan (p) ・ Paul Rovere (b) ・ Daniel Humair (ds) 1959.4.25

B-2 Lady Bird (T.Dameron) 11:15

RCA のバルネです。メジャーレーベルからの発売ながら余り売れなかったせいか、極端に稀少価値が付いたようです。(転籍して退職金を貰った時、自分へのご褒美で入手しました) 演奏は、バルネ本人はもとより、ドーハム、ジョーダンが絶好調です。有名なベサメ・ムーチョは復活後のIDA盤に譲り、白熱のこの一曲をお聞き下さい。

10. Les liaisons dangereuses (fontana 680.203ML)

Barney Wilen (ts) ・ Lee Morgan (tp) ・
Bobby Timmons (p) ・ Jimmy Meritt (b) ・ Art Blakey (ds) 1959.7.28-29

A-1 No Problem (D.Jordan) 7:18

フランス映画「危険な関係」のサウンド・トラックです。バルネはこのテーマ曲を何回も録音し直していますが、やはり本家ジャズ・メッセンジャーズとの競演が一番熱いです。

11. Un témoin dans la ville (fontana 660.226MR)

Barney Wilen (ts/ss) ・ Kenny Dorham (tp) ・
Duke Jordan (p) ・ Paul Rovere (b) ・ Kenny Clarke (ds) 1959

A-1 Témoin Dans la Ville (B.Wilen) 2:56

B-3 Sur l'attente (B.Wilen) 4:11

邦題「彼奴を殺せ(きゃつをけせ)」。主演はリノ・ヴェンチュラ。全編バルネ作曲のサントラです。この辺りの録音から、ソプラノ・サクソスへの持ち替えが始まります。

12. Paris Jam Session (fontana 680 207TL)

Barney Wilen (as) ・ Wayne Shorter (ts) ・ Lee Morgan (tp) ・
Bud Powell (p) ・ Jimmy Meritt (b) ・ Art Blakey (ds) 1959.12.18

A-2 Bouncing with Bud (B.Powell) 11:32

ジャズ・メッセンジャーズにパウエルとバルネが共演したジャム・セッション。御大パウエルの十八番を熱く演奏しています。バルネはアルトに持ち替えての参加。ソロオーダーはショーター⇒モーガン⇒バルネ⇒パウエル。モーガンのトランペットも炸裂しています。

13. Jazz Sound-Track (Decca-German LF-1612

⇒Sonorama L-60)

Barney Wilen (ts/ss) ・ Marcel Peeters (as/fl) ・ Raymond Court (tp) ・
George Gruntz (p) ・ Karl Theodor geier (b) ・ Kenny Clarke (ds) 1960

A-1 Main Theme (Gruntz) 1:53

A-2 Blues and Theme (Gruntz) 2:47

西ドイツの”Mental Cruelty”と云う映画のサントラ。印象的なフレーズのテーマが流れます。近年、優れたアナログ盤の発掘を続ける、ドイツ・ソノラマレーベルより2011年に復刻されました。

14. International Jazz Meeting (CBS-Italy 33QPX-8018

⇒DIW-Japan DIW-3022)

Barney Wilen (ss) ・ Flavio Ambrosetti (as) ・ Franco Cerri (g) ・
George Gruntz (p) ・ K.T.Geier (b) ・ Eberard Stengel (ds) 1961.6.26-27

A-4 Ow (D.Gillespie) 4:20

バルネ参加のイタリア盤、その稀少性でバルネ蒐集の最難関とされているレコードです。数年前にユニオンから復刻された際、解説の漫画家・橋本孤蔵さんも書かれているように相当リラックスした内容で、再発されてやや熱が冷めたのは否めません。

因みに橋本氏は昔新宿ユニオンでバイトをしていて、96年には「羽流音」(BARUNE/West Coast 奇譚)と題した2冊の漫画単行本を出版、代表作は女鮫職人が主人公の「きららの仕事」。最近ではEP盤のコレクターとしても名を馳せています。16年くらい前に、彼がジョニ・ジェームスのジャケ写真付きディスコグラフィを作成した際、レコード会社のNorma 岩間氏より紹介され、何度かコレクター冥利に尽きる手紙のやり取りをして、数点私の秘蔵盤ジャケ写真を提供した思い出があります。

15. What's New (Meazzi MLP-04012⇒ Right Tempo RTCL811)

Barney Wilen (ts) ・ Dusko Goykovich (tp) ・ George Gruntz (p) ・
K.T.Geier (b) ・ Gil Cuppini (ds) 1961.9.1-2

A-2 Hatch-Tag-Blues (Goykovich/Geier) 9:07

イタリアのドラマー、ギル・クツピーニのリーダーアルバムにバルネはtpのダスコ・ゴイコビッチとともに参加、二人とも全開でソロをとっています。活動時期が微妙に違うこの二人の共演は余り無く、残念です。

さて特集を企画する立場としては、ここから25年間のバルネの活動・足跡を辿る必要があるかと考えましたが、限られた時間故、思い切って全て省略しました。何故なら

- ・ドイツのメンバー、あのM.ショーフ等と時代を反映したフリー・ジャズに没頭
- ・自動車レースを題材にしたノイジーな実況音源とジャズとのコラボレーション
- ・ビートルズを始め60年代のアーティストが傾倒したインド伝統楽器シタールとの共演
- ・サイケデリックなロックミュージシャンとのエレクトリック・ミュージック
- ・アフリカを放浪、現地の楽器・土着歌謡とジャズの融合を意図した記録

等、彼はこの時代に勃発していたあらゆるムーブメントに挑戦していましたが、冷静に振り返った今、この期間の活動はコアなジャズファンとは無縁だった、と思うからです。余談ですが、最近発掘されたMoshi Tooなるアフリカ放浪残り音源のジャケと一緒に写っている女性が当時のパトロンの様です。(英王室の高貴な姫君だったそうですが)

16. La Note Bleue (IDA 010)

Barney Wilen (ts) ・ Philippe Petit (g) ・ Alain Jean-Marie (P) ・

Ricardo del Fra (b) ・ Sangoma Everett (ds) 1986.12

A-1 Besame Mucho (C.Velazquez) 4:26

バルネがジャズ界で再度注目を浴びた復帰作です。長い永い旅から帰還し、すっかり肩の力が抜けて、ここから亡くなるまでの10年間、数多くの録音を残します。このアルバムは本人をモデルにした漫画とのコラボとして制作、なんとあのハーレム・ノックターンまで演奏しています。

17. French Ballads (IDA 014)

Barney Wilen (ts/ss) ・ Michel Grailier (P) ・

Ricardo del Fra (b) ・ Sangoma Everett (ds) 1987.6.24-26

A-1 L'ame des Poetes (Ch.Trenet) 4:37

A-5 Un Ete 42 (M.Legrand) 4:07

両面全曲をお聞かせしようか！と本気で思ったくらいにバルネの魅力が詰まったレコード。録音も素晴らしく、テナーの力強さ・ソプラノの美しさを余すことなく捉えた傑作です。シャンソンには素敵な邦題が付けられますが、この2曲は其々「詩人の魂」・「思い出の夏」です。間違いなく私が棺桶に入れて欲しいレコードの1枚！！

18. French Ballads (Venus-Japan TKJV-19028)

B-3 Tears (D.Reinhardt) 4:12

フレンチ・バラッズのセッションは13曲録音され、CDには全て収録されています。IDA盤LPはこの内9曲が収められていますが、日本のVENUSがLPを発売した際にはIDA盤LPから2曲を削り、逆に3曲の違うトラックを加えた全10曲を収めました。因みにどちらのLPにも収録されなかった1曲はCDオンリー。結局3枚とも必要になりますね！

19. Wild Dogs of Ruwenzori (IDA 020)

Barney Wilen (ts/ss) ・ Alain Jean-Marie (P) ・ Henri Guedon (per) ・

Ricardo del Fra (b) ・ Sangoma Everett (ds) 1988.11.21-24

A-1 Port of Spain Shuffle (Traditional) 5:06

B-3 Auburn Prive (S.Everett) 4:23

C-1 Poinciana (N.Simon) 7:31

IDA三部作と私が勝手に名付けたアナログ盤の愁眉がこの2枚組。美しいメロディーの曲が目白押しです。当時の恋人、マリー・ムーアのペインティング・写真がこの時代のジャケットには多用されています。(彼女のヴォーカルは・・・ご遠慮します)

20. Sanctuary (IDA 029 CD)

Barney Wilen (ts/ss) ・ Philip Catherine (g) ・
Palle Danielsson (b) 1991.1.26-28

Track-3 Swing 39 (D.Reinhardt) 5:59

Track-4 Dance for Victor (P.Catherine) 3:36

ギター・ベースとのトリオ。清々しいコラボが魅力のこのCDもお気に入りです。

(この時期、ギターとデュオの「Flash Back」・ピアノとデュオの「Dream Time」と云ったCDアルバムを他のレーベルから発表しています)

IDA よりCDオンリーで発売された作品は、この「Sanctuary」の他に「Talisman」がありますが、時間の制約で止む無く割愛します。

21. Le ca : New York Romance (Venus-Japan TKJV-19051)

Barney Wilen (ts) ・ Kenny Barron (p) ・
Ira Coleman (b) ・ Lewis Nash (ds) 1994.6.19-20

B-2 Don't Fence Me In (C.Porter) 7:24

フレンチ・バラッドのヒットに目を付けたのが、“あの”ケニー・ドリュー一連のシリーズを制作した日本のプロデューサーMK 氏とTH 両氏。これでもか！と云うくらいスタンダード・オンパレードの選曲で、アルバムが量産されました。Alfa からはマル・ウオールドロンと共演した「ふらんす物語」・「パリス・ムード」・「モダン・ノスタルジー」・「エッセンシャル・バラッド」・恋人マリー・ムーア名義の「ピターアンドスイート」の5作。

Venus にプロデューサーごと移ってからは「インサイド・ニッティ=グリッティ」・「ニューヨーク・ロマンス」・「ベサメ・ムーチョ」・「パツショ=ネ」の4作。(合計9作一応全部あります)

今回、特集のプログラム選定のために改めて聞き直しはしましたが、やはり・・・確か昔、我蘭堂氏が「バルネは甘くてどうもね～」と首を傾げて仰ったのは、この日本企画を指していたのでしょうね。タイトルの設定・ユービーソーナイスに始まる陳腐な選曲・ジャケットのどれを見ても余り触手が伸びません。復帰後のバルネは IDA の5作品さえ押さえれば充分だ！と云うのが私の本音です。(日本企画の過程で IDA と契約し、IDA 作品の日本盤を併売したお蔭で、今でもバルネの傑作CDが中古で結構流通しているのが、両社最大の功績？ですね。因みに本国フランスでは IDA はとっくに活動休止したようで輸入盤CDは入手困難です) その日本企画の中でなんとか1曲はと、ヴァンゲルダーススタジオでの唯一の録音であろう、このアナログを選びました。

(風紀委員長殿より常々ご指摘のある通り、ジャケットのセンスは最悪ですが)

Coffee Brake

22. the Osaka concert (trema 710604 CD)

Barney Wilen (ss) ・ Laurent de Wilde (p) ・
Gilles Naturel (b) ・ Peter Gritz (ds) 1994.10.20
Track-5 Lullaby pour Enfant - Talisman (Japanese traditional) 8:55

IDA の最終作のタイトルにもなった Talisman⇒ご存じ五木の子守唄。ヘレン・メリルも 60 年代の日本企画で取り上げています。バルネ 94 年来日時の大阪でのライブ録音がどういう訳かフランスのマイナーレーベル trema から発売されました。このレーベルは IDA と同様もう既に活動を停止しているようで、短期間しか流通しませんでした。バルネのメンバー紹介等の肉声が聞ける、貴重な録音です。

23. More from 'Barney' at the Club Saint-Germain

(BMG-France CD 74321544222)

Barney Wilen (ss) ・ Kenny Dorham (tp) ・
Duke Jordan (p) ・ Paul Rovere (b) ・ Daniel Humair (ds) 1959.4.24
Track-5 With a Song in My Herat (L.hart-R.Rodgers) 8:41

RCA のバルネはクラブ・サンジェルマンでのライブ録音ですが、レコードとして発売されたのは4曲のみ。他に 8 曲の残りテイクがあり 1997 年に CD 化、どれもが素晴らしい演奏です。いつか本編と併せ「12 曲・3 枚のアナログレコードで復刻してよ！」と、懇意にしている「ふらんすのおっちゃん(澤野商会の弟・稔さん)」に陳情？しています。

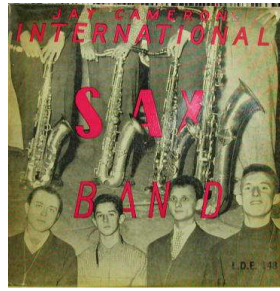
24. Suspense! (Disque-cadeau AA261.119)

Barney Wilen (ts/ss) ・ Kenny Dorham (tp) ・
Duke Jordan (p) ・ Paul Rovere (b) ・ Kenny Clarke (ds) 1959
A-1 Temoin Dans la Ville (B.Wilen) 2:56

「彼奴(きゃつ)を殺せ」のメインテーマに主演のリノ・ヴェンチュラのせりふを被せて発売されたプロモーション用の珍しいシングル盤です。



1



2



3



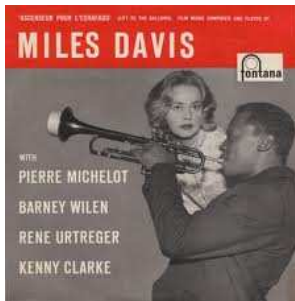
4



5



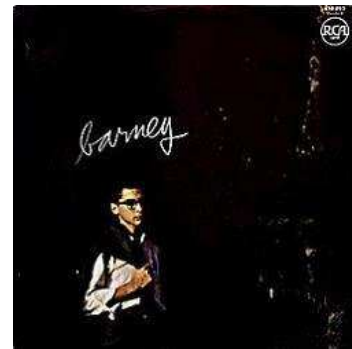
6



7



8



9



10



11



12



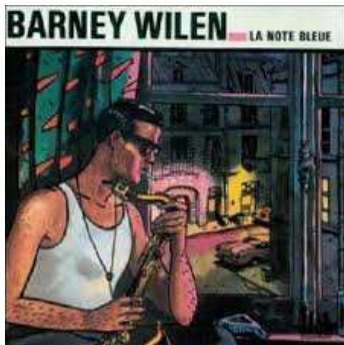
13



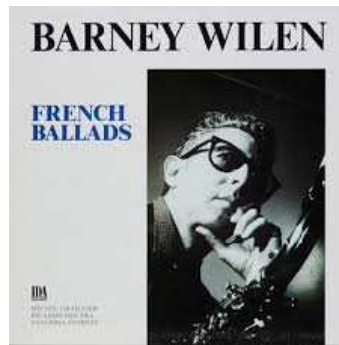
14



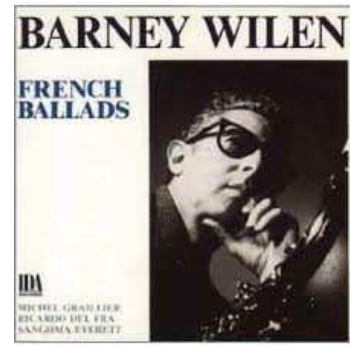
15



16



17



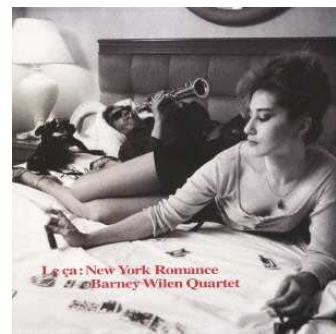
18



19



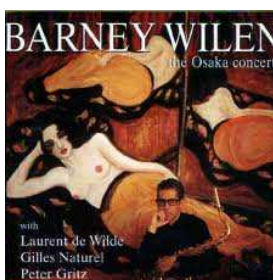
20



21

Barney with Marie Moor

-coffee brake-



22



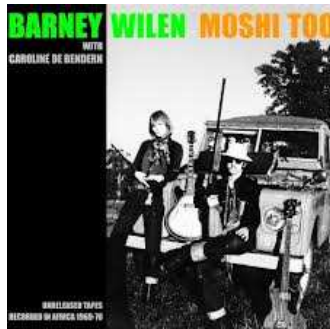
23



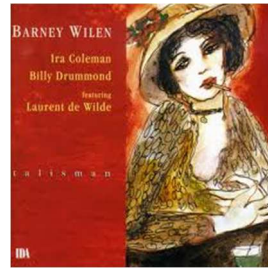
24



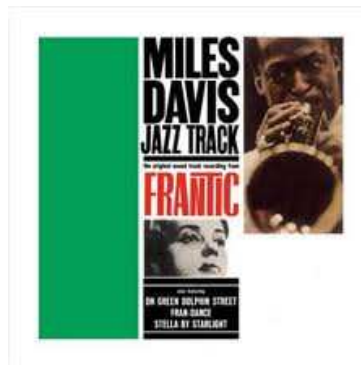
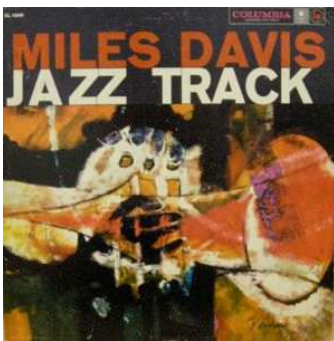
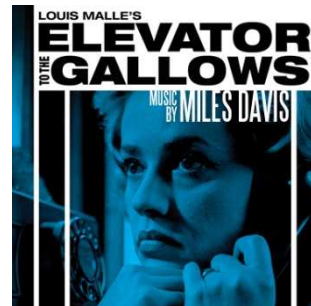
Afternoon in Paris
Atlantic 盤



Moshi Too
Barney with Caroline



Talisman
IDA 037CD



死刑台のエレベーター・ジャケットの色々